

スペシャルインタビュー
この人に聞く
Special Interview

基礎を徹底して難関大学へ

「楽しい」「わかる」を大切に 中学では英語と数学を固めよう

中高生対象の数理専門塾としてスタートし、現在では「英語多読」でも知られているのが「科学的教育グループ SEG」です。大学合格実績の高さも顕著で、今春も東大をはじめとする難関大学や医学部医学科に多数の合格者を出しています。英語や数学を楽しむことを重視するSEGの教育について、代表の古川昭夫先生に伺いました。

SEG

代表 古川 昭夫先生

「多読」で伸ばす英語力 易しいものから順に読む

広野 4技能の重視や小学校での必修化など、英語教育の強化が進んでいますが、まだまだ昔ながらのカリキュラムで指導している中高一貫校も少なくありません。ここ最近で子どもたちの英語力が顕著にアップしたかというところでもなく、学校の授業だけではきちんとした英語力がつかないのではという不安を持つ保護者の方もいます。

古川 大学付属校の生徒など、小学生のうちから熱心に英語を勉強している子は少なからずいますが、その割にあまりわかっていないと感じることもあります。

広野 私立小学校で英語を6年間勉強してきた子でも、「話す」「聞く」が中心で体系的に学んでいないため、中学に進んでも「発音がきれい」というだけで終わってしまうことがあるようです。

古川 そういうケースは多いと思います。SEGに通っている生徒の中にも、数学は自信があるものの、英語はまったくできないから、英語だけは塾に行かせてほしいと保

護者に頼んで入会した子がいます。将来は理系の研究者になりたいという子で、母親に「SEGなら英語の本が読めるようになるらしい」と勧められ、中1のときにいちばん下のクラスに入りました。中2で上のクラスに上がり、中3の終わりにはかなり厚い本を読めるようになって、そこから先はどんな本でも読める英語力がつきました。

広野 急に伸びる臨界点がどこかにあったのでしょうか。SEGの英語といえば多読です。授業の進め方を教えてください。

古川 英語多読の授業は、原書を易しいものから順に読んで英語力を伸ばしていくというもの。外国人講師と日本人講師の授業が80分間ずつセットになっており、外国人

聞き手

サビックス
教育事業本部 本部長
広野 雅明



パートの授業はオールイングリッシュで、文法もすべて英語で教えます。英会話をイメージされるかもしれませんが、それだけではありません。

広野 授業は少人数で、教室にはたくさんの英語の本がありますね。

古川 各教室に1万冊から2万冊の本を置いています。最初は絵本など簡単な本から始め、少しずつレベルを上げていくのですが、生徒一人ひとりの英語力や興味のある分野に合わせて本を選びます。講師は、最低1か月は生徒の様子を見て、その子に合った本を選書していきます。

ストーリーを楽しむことが 英語を学ぶ強い原動力に

広野 学校での英語が難しいのはそこですね。1クラスに40人もいれば、一人ひとりに合ったレベルで授業を行うのはまず無理でしょう。その点、SEGでは自分のレベルに合った本、しかも興味のある分野の本で学べるのが魅力です。算数も同じですが、難しい問題に挑戦するだけではなく、自分で解き切る力をつけることが求められます。問題が解けて楽しいと思う感覚が大事ですね。

古川 数学なら「問題が解けて楽しい」、英語なら「内容がわかって楽しい」ということでしょう。多読はストーリーも楽しめるので、さらに楽しくなります。そのあたりがSEGで英語を学ぶ原動力になると思います。

広野 英語が母語の子どもたちが読む絵本から始まって、徐々に文章を理解して文字だけの本に移行していくという過程を踏まないと、なかなか読めるようにはならないですよ。

古川 英語に限りませんが、とにかく大切なのは基礎です。基礎をしっかりやらずに速く進んでも、結局伸びなくなってしまいます。今の日本の英語教育における最大の欠点は、中学はともかく高校で生徒の英語力よりはるかに難しい英文ばかり読ませることです。ほとんどの生徒には役立っていません。

広野 内容が難しいと逐語訳のようになって、文意を読み取るどころか直訳になってしまいますね。

古川 英語がわからないから、どうしても日本語を通じて理解することになります。それでは英語の力は伸びませんし、話すことも聞くこともできるようにはなりません。

広野 日本語に訳さず英文のまま理解しようとすることで、単語や文章の意味が自然に入ってくるようになるのですね。



古川先生はこのほど、国際多読学会からミルン革新賞を授与されました。この賞は革新的手法で読書による英語の教育と発展に大きく貢献した人物に贈られるもので、英語を母語とする話者以外では初の受賞です。

古川 簡単な本から始めても、上のクラスの生徒はネイティブの高校生と同じレベルの本が読めるようになります。少人数制で、クラスは基本的に持ち上がりなので、講師は同じ生徒を連続して担当します。生徒と講師との距離が近いですし、「この子はこんな感じ」と講師側がよくわかっていることもSEGの多読の魅力です。

広野 外国人パートでの、映像をもとにしたライティングも特徴的ですね。

古川 ライティングは、低学年のうちはとにかく好きなことを書きます。間違えてもいいからとにかく書く。高学年になってくると、テーマがあるエッセイライティングに近いことをやっています。

広野 自分で考えて文章を書くことで英語力を伸ばすのですね。

古川 社会に出て自分の考えを相手に伝える場合、話す機会よりも書く機会のほうが多いですからね。しっかり書けることが大事です。

英語にたくさん触れて 自分のペースで進める

広野 多読の授業は何年生から受講できますか。

古川 中1から可能です。ただ、本格的な多読は中3くらいの文法力と単語力が必要です。そのレベルの力があれ

Profile

科学的教育グループ **SEG**®

所在地：〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-19-19 新宿駅西口徒歩7分
TEL：03-3366-1466 URL：www.seg.co.jp

SEGは株式会社エスエージーの登録商標です。

ば、ある程度難しい本もどんどん読めるので、多読の効果は高くなります。中1は易しい本から始めますが、小学校で英語をしっかり勉強してきた子は1か月ほどで中3レベルにたどり着きます。そうでない子は2年から3年かかります。とはいえ、一度そこまで読めるようになると、高校3年間で大きく伸びます。

広野 最初はCDの音声を聴きながら読んでいくそうですね。

古川 始めたばかりの中学生は聴きながら読むのが効果的です。音声よりも速く黙読ができるようになったら、CDは使わずに読んでいきます。

広野 最初は多少ゆっくりでも、音声を聴きながら英文を見て、日本語に置き換えずに理解するということですね。

古川 まずはそこが大事で、英語は英語にたくさん触れなければできるようになりません。膨大な宿題を出して英語に触れさせる塾もあるようですが、それでは楽しくないでしょう。SEGでは本を読むことがいわば宿題で、それによって英語にたくさん触れてもらいます。

広野 本を読むこと自体に意味があると思います。たとえば、動画を見ると、本を読んで想像力を働かせて意味を理解するのとではまったく違う気がします。

古川 映像にはわかりやすいという利点があります。SEGでも外国人パートでは映像を活用しています。一方、本の文字を追うメリットは、より頭を使う、自分のペースで読める、の2点です。慣れればかなり速く読めるようになりますし、のんびりいきたいときはゆっくり読むこともできます。自分のペースや能力に合わせて読める点が多読のいいところです。

中高6年間で500万語超を読む子もいますが、150万語くらいにとどまる子もいます。マイペースでゆっくり読んでいた子でも東大に合格しているので、自分のペースで進められるのは大いに意味のあることだと思います。

広野 難関大学の英語の入試問題は長文化していますし、あらゆるジャンルの難しい語彙がたくさん出ます。日

ごろから読書になじんでいると、こうした入試に十分対応できますね。大学に入学した後も、英語の論文を読んだり、書いたりするのに大いに役立つと思います。

なぜそうなるかを考える 算数と数学の違いを知る

広野 英語多読では、簡単なものから少しずつレベルアップしていけば、難関大学に合格できる力がつくことがわかりました。算数や数学でも同じことがいえそうです。小学生を見ていても、基礎的な問題をたくさん解いて臨界点に達すると、難しい問題が急に解けるようになる子は少なくありません。

古川 英語も数学も基礎が大事です。基礎がちゃんとわかって自分で解けるようになると、それが蓄積されて実力が顕在化します。大学受験に向けてとにかく速く進もうという考え方もありますが、その必要はありません。特に、数学は時間がかかっても自分の頭で考えるのがいちばん大事で、それを忠実に実行している生徒は中3や高1になって急に伸びます。

広野 速く進めようと先取りし過ぎると、かえって英語嫌い、数学嫌いになってしまいます。確かに、数学は基礎が大事なので、無理やり詰め込んだとしても考える力は育ちません。機械的な作業をしているだけで、数学がおもしろい教科だとわからないまま進んでしまうのはもったいないですね。

古川 おもしろいことなら、たとえできなくても、できないなりに続けられます。だから、やはり「おもしろい」と感じるのがとても大事です。

広野 では、SEGの数学の授業についてお聞かせください。

古川 数学の授業の特徴は生徒と講師が一緒に考えることです。基本概念は講師が説明しますが、たとえば「三角形の合同ってどういうことなの？」と一緒に考えながら

進めていきます。

広野 算数と数学のいちばんの違いですね。算数は、基本は答えを出せばいい。中学入試でも数学的な論証を細かく要求されることはほぼありません。数学を学ぶ際はそこのシフトチェンジが必要ですが、算数ができる子は直感で解いてしまいがちです。算数が得意だったのに数学が伸びない子は、いつまでも算数が捨てられないのでしょう。算数的な解き方に習熟してしまって、文字式や方程式で解くのが面倒という壁にぶつかるのだと思います。

古川 そこから抜け出せるかどうかが重要ですね。逆にいうと、それができなければ高校数学の範囲に入ると厳しくなります。

広野 一方で、算数は得意ではなかったけれど、数学になったら一気に伸びる子もいますね。そうなるためにはやはり最初の入り口で数学を楽しみと思えることが必要です。

古川 そうですね。SEGでも特に中1では、さいころを実際に振り続けて法則性を見つけたり、三角形の総数の謎に挑む陣取りゲームをしたりと、楽しみながら「それ、どうしてなの？」と考える授業をしています。

広野 実感すること、それを集団でやることは、子どもなら楽しいものですからね。サビックスもそうですが、授業は少々にぎやかで発言しやすい雰囲気になっていることがとても大事です。

古川 授業はそれがいちばん重要ではないでしょうか。SEGの数学の授業もにぎやかで、特に低学年ほど顕著です。

差がつきやすい英語と数学 つまずく前に基礎力を

広野 SEGには数学が得意な子ばかりが集まっていて、苦手な子は入りづらいという雰囲気はありませんか。

古川 それはないですね。もともと数学が苦手でも中3くらいから伸びる子は結構いますから。もちろん、数学が得意な子もたくさんいますが、そうではないと思っている子もかなりいます。

広野 ちょっと苦手だと思ったら早めにスタートしたほうがいいのかもかもしれませんね。

古川 そのとおりだと思います。ただ、中1・2の間は多読の授業だけ来ていて、学校生活に慣れたので中3から数学を始めるという生徒もいます。それでも東大理三や慶應大の医学部などに合格していますから、勉強したくなっ



たときに来てもらったらいと思います。

広野 塾の宿題が多すぎて学校の勉強がおろそかになるケースは少なくないようです。SEGの宿題の量はどうですか。

古川 多くはないですね。全員が必ずやらなければならない宿題は30分もあればできると思います。

広野 中学生の間は学校の勉強とクラブ活動を大切に、隙間の時間を活用して塾で学ぶくらいがちょうどいいですね。

古川 速く進み過ぎて、宿題が多くて、学校より塾の勉強を優先しろというのは考えものです。

広野 学校の勉強をしっかりやっていくにしても、現実問題として英語と数学は子ども任せにしておくと大きな差がついてしまいがちです。特に、英語は高校生になってから取り戻すのはなかなか難しいですね。

古川 厳しいです。数学も中学数学がきちんとできていなければ、高校数学が理解できず、文系に進むという選択になってしまいがちです。

広野 中学生になったら、保護者がわが子の様子を冷静に見て、子どもが楽しめる塾を活用するのがいいでしょう。

古川 塾も塾の先生も選べるのに対し、学校の先生は選べません。いい先生に当たれば問題ないのですが、そうではないこともありますから、保険をかける意味で塾に通っておくのもいいと思います。学校や勉強のことも気軽に相談できますから。

広野 中学に入学したら、まずは英語と数学をきちんとやっておくということですね。英語は本格的に学ぶのが初めての教科ですし、数学は積み重ねが重要ですから。英語も数学も一度つまずくと、そこまで戻って学習し直すのは大変です。基礎の力をつけておくこそ本当に重要です。

古川 英語と数学だけをしっかりとやっておけば、あとは高2くらいからの受験勉強でも十分間に合います。とにかくまずは楽しみながら学んでほしいですね。



英語多読の外国人パートの授業風景。生徒の話す機会を積極的に設けています



読破した本の語数はこの手帳に記録します。語数が着実に増えていくことが励みに



正八面体を作る生徒。実際に自分の手を動かすことによって、理解をより深めます